

～自己紹介～



猪狩 典子 (いがり のりこ)

NTT東日本
地域循環型ミライ研究所 所長

国際大学GLOCOM客員研究員
消費生活アドバイザー

主な関係地域

- 1975年、東京都生まれ。
- ー 岩手県 一関市(平泉町)
 - ー 沖縄県 慶良間諸島
 - ー 長野県 松本市 (安曇鈴蘭)



主な経歴

大学ではマーケティング・コミュニケーションを専攻

1998年～ NTT入社後、営業現場を経て、経営企画、マーケティング、人材開発などを歴任

2008年～ 国際大学GLOCOMに出向。デンマークの競争力と幸福を創り出す社会と出会う。

2023年～ 地域循環型ミライ研究所 所長に就任



01 | Purpose 存在意義



地域循環型社会の共創

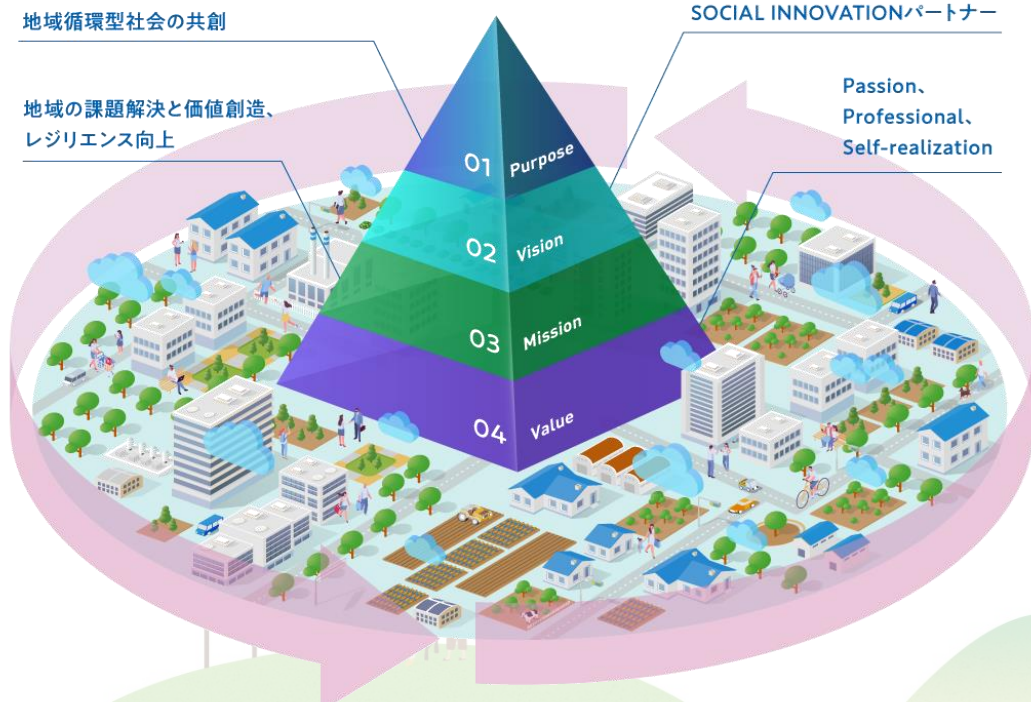
地域に密着した現場力とテクノロジーの力で、夢や希望を感じられる持続可能な循環型地域社会を共創します。

02 | Vision なりたい姿



SOCIAL INNOVATION パートナー

地域の価値創造企業として、SOCIAL INNOVATIONパートナーを目指します。



地域の価値創造企業へ

**SOCIAL
INNOVATION
パートナー**

NTT東日本グループ



地域の価値創造企業としてSOCIAL INNOVATIONパートナーを目指す

地域循環型ミライ研究所(ミライ研)とは

- 「**地域循環型社会の共創**」というNTT東日本パーパスの実現に向けて、ICTによる地域課題解決にとどまらない、新たな地域の価値創造をめざす **地域シンクタンク** として設立（2023年2月1日）
- 地域の暮らし・ところに深く根付く **社会価値＝「文化」、「食」、「自然」の保存・活用を重点研究** 領域として設定
- **地域のさまざまなステークホルダとの共創**を通じて、**持続可能な地域社会のモデル創出**を目指す

STEP-1

地域の文化など資産・魅力の
調査・研究



STEP-2

地域の人びとを繋ぐ



STEP-3

社会/経済循環モデルの発信・提言
Connect **Implement**



地域社会への実装に向けた情報発信/提言、デジタルを活用したロングタームな支援

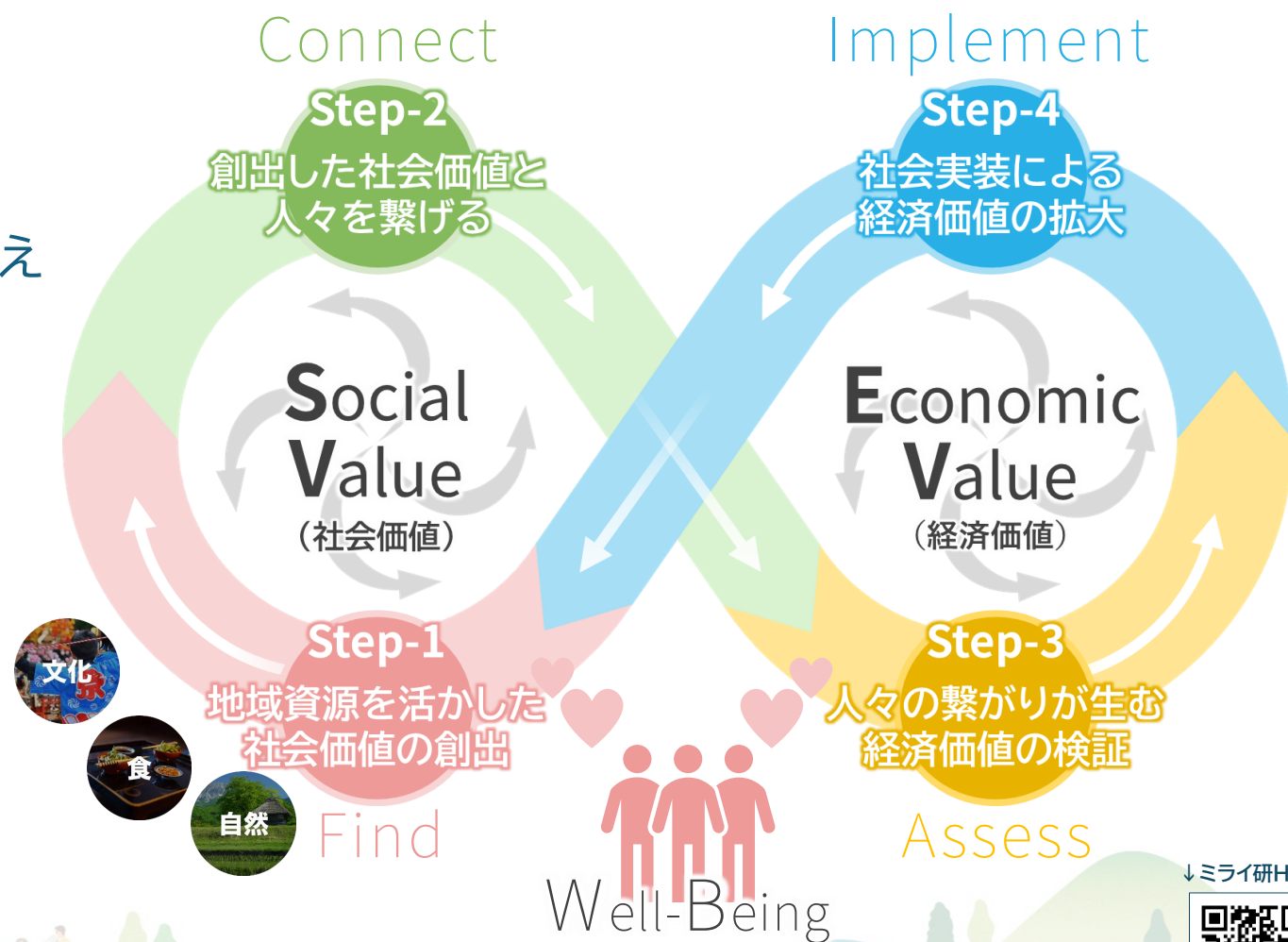
ミライ研が追求する社会/経済の価値循環モデル＝“ローカル・ループ” ∞

人々のウェルビーイングを中心に据え

持続可能な地域社会を実現するために

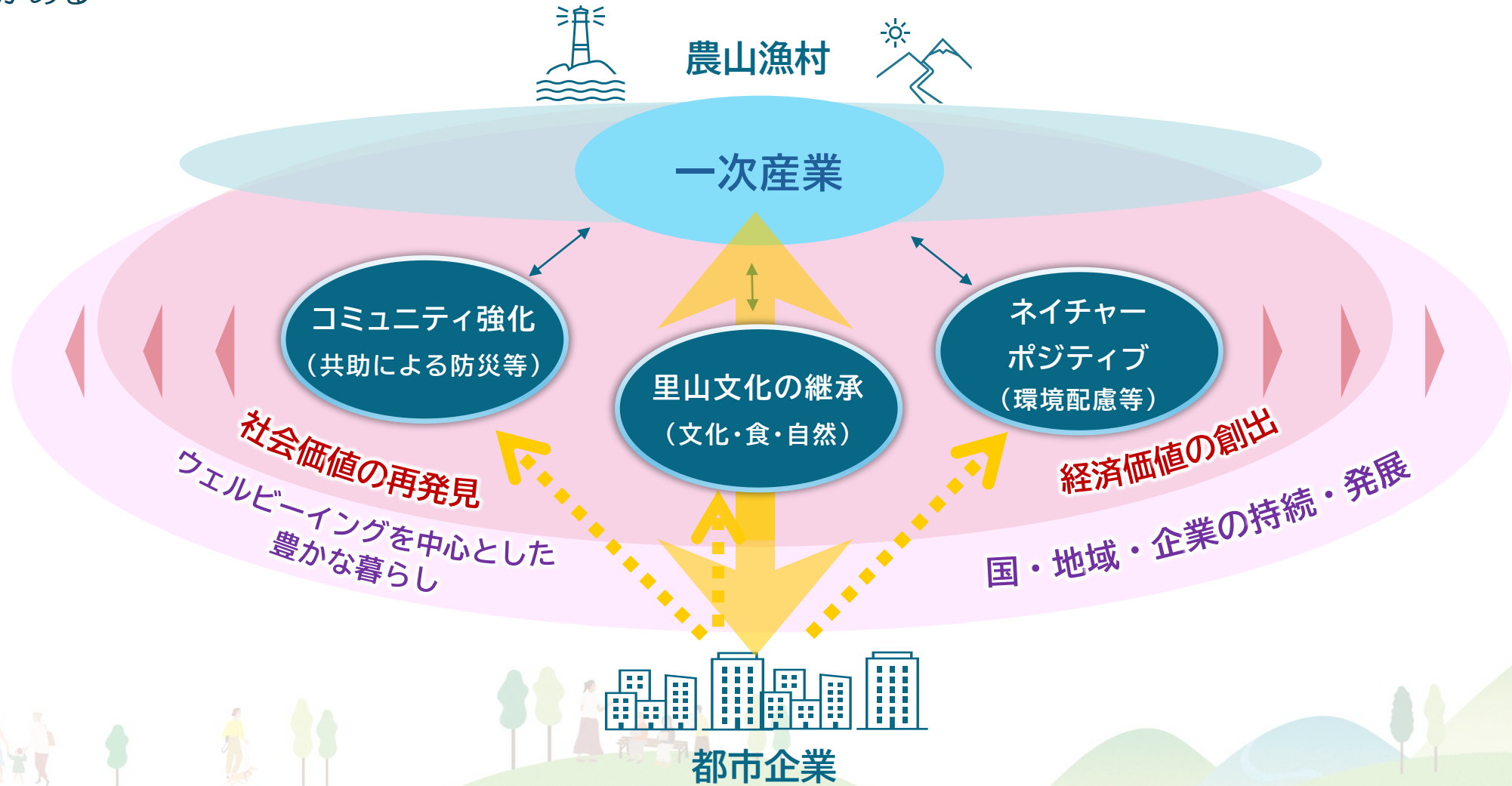
社会価値と経済価値が循環する

社会モデル構築に向けて活動



農山漁村の多面的価値(文化、コミュニティ、自然等)

- 農山漁村は、一次産業のみならず、地域の暮らしを支える固有のコミュニティ、文化、自然といった次の世代に残すべき社会価値の源泉としても重要
- 都市企業は、事業基盤である社会全体の活性と持続に向けて、農山漁村を起点とした地域の価値創造に長期的視点で関わる必要がある



棚田を活用した企業研修実証による社会起業家マインドの醸成(新潟県十日町)

<プロジェクト概要>

里山の原風景である棚田の多くは存続の危機に瀕しています。棚田の保全・継承に向けた活動を行う新潟県十日町の社会起業家と連携し、星峠の棚田をフィールドとした企業研修を実施しました。多様な生命や文化の源泉である棚田を題材とした研修を通じて、社会起業家マインドの醸成や「通い農※」の定着に向けたモデル研究を行っています。

※「通い農」とは、主に都市部などの地域外に住む人が耕作主体として、里山に通って田畑の保全に関わるライフスタイル

星峠の棚田耕作農家との対話会



農業従事者や行政関係者との対話を通じて、多様なステークホルダーの視点・課題を学び、社会課題解決に向き合う重要性を体感しました。

中山間地域の「今」を五感で学ぶ稲刈り体験



多様な価値をもつ棚田を保全・継承していくことの意義や大変さを体感することをねらいとして、地域の方と共に稲刈り作業を行いました。

地域おこしロールプレイングの様子



社会課題解決を共創する実践として、「棚田の課題解決」をテーマに多様なロールを演じながら合意形成を図るワークを行いました。

詳細はこちら
↓



<プロジェクト概要>

関係人口を一過性のものではなく維持・継続するためには、地域と深く関わるきっかけが重要という仮説のもと、ボランティア体験や祭り参加、住民協働でワークショップを行うなどさまざまな地域との“関わりしろ”を盛り込んだワデュケーションを2回開催し、参加者の意識変容等を調査しました。

社員が「花輪ばやし」の屋台を押す様子



ユネスコ無形文化遺産である「花輪ばやし」に夜通し参加し、祭りの担い手不足に対し、関係人口が打開策となりうるのかを検証しました。

住民と協働で地域を考えるワークショップ



外からの目線で地域と関わることで見えてくる“地域の魅力とミライ”について、地域住民と共に考えるワークショップを実施しました。

継続的な関係人口につながるコミュニティ



参加者は鹿角市の関係人口施策である「鹿角家」等のコミュニティに入り、イベント参加等を通じて継続的に鹿角市とつながっています。

詳細はこちら



「地域越境型探究学習」による地域愛醸成効果の実証(長野県 喬木村)

<プロジェクト概要>

長野県喬木村の協力のもと、ドルトン東京学園の「地域越境型探究学習プログラム」を企画・支援しました。具体的には、地域をフィールドに学生が問いを設定し、情報を集め、仮説を立てる。そして、実際に現地に滞在、交流し、解決策を考える取り組みです。これらを通じて、生徒と地域双方にどのような地域愛の醸成などの効果をもたらすのか、半年間の活動に伴走、調査しました。

阿島傘の保存・継承に向けた意見交換



作成当時日本一の大きさを誇った和傘の下で、伝統工芸品の保存・継承に取り組んでいる地域おこし協力隊の方の熱い想いを伺いました。

限界集落における地域住民との意見交換



令和2年の豪雨災害の被災地でもある大島地区は住民の8割強が高齢者。域外の学生との交流が地域にもたらす効果について調査分析しました。

喬木村役場とオンラインで繋いだ最終発表会



半年間の探究成果を喬木村役場に発表し、現地での経験や観察を基にした解決策が、独自の視点を持つ内容として地域から高く評価されました

詳細はこちら

